

85 ハチクマ

(タカ目)

兵庫県ランク:B

Pernis ptilorhynchus

繁殖個体群:B 越冬個体群:無 通過個体群:B

環境省ランク:NT(準絶滅危惧)

種の概要

北海道、本州、四国では夏鳥、九州、沖縄では旅鳥。兵庫県では主に3-11月に見られる。丘陵から低山の森林に生息し、落葉広葉樹やアカマツなどに営巣する。好物は地中のクロスズメバチだが、その他の昆虫類やカエル類、ネズミ類なども捕食する。春秋の渡りの季節には大群となることが知られている。



写真提供:三谷康則

国内分布

北海道、本州、粟島、佐渡、舩倉島、見島、四国、九州、対馬、男女群島、小笠原群島、トカラ列島、奄美諸島、琉球諸島

県内分布 ()表記の市町では2002年以前に生息確認

神戸市、姫路市、(明石市)、西宮市、豊岡市、加古川市、(赤穂市)、(宝塚市)、三木市、川西市、小野市、(三田市)、篠山市、養父市、丹波市、南あわじ市、朝来市、淡路市、宍粟市、(加東市)、たつの市、猪名川町、福崎町、(神河町)、(佐用町)、香美町、新温泉町 ※県内繁殖有



主要な選定理由

影響の人為性				生態の脆弱性 (特殊性)			学術上の希少性		
個体数激減	分布域激減	餌の可用性の低下	特殊競争圧	特殊捕食圧	特殊繁殖環境	特殊採餌環境	ねぐら休息環境・	局地的繁殖	希少

県内における生息状況およびその他特記事項

AランクからBランクに変更。
県内での繁殖確認例は少ない。渡りの時期には、単独-数羽から数10羽の群れが県内を通過する。大群の例としては、1976年5月に氷ノ山で4群150羽、1983年9月に神戸市高倉台で427羽、書写山で218羽の記録が残されているが、近年は大きな群れはあまり見られない。最近はやや回復傾向にあるため、Bランクに変更した。

保護上の留意点

営巣地の保全および営巣地周辺への入山規制が重要。



写真提供:三谷康則



写真提供:三谷康則